

川内1号機 再稼働

「原発ゼロ」終わる

九電、14日に発送電開始

九州電力は11日、川内原発1号機(鹿児島県薩摩川内市)の原子炉を起動し再稼働させた。2011年3月の東京電力福島第1原発事故後、新規制基準に基づく審査に合格した原発の再稼働は全国で初めて。国内の全ての原発が停止していた「原発ゼロ」状態が終わり、川内1号機は14日に発電と送電を開始する。



鹿児島県薩摩川内市の九州電力川内原発1号機=7月



原発の稼働は、電力不足を理由に12年7月から13年9月まで一時的に運転した関西電力大飯原発(福井県おおい町)の停止以来約1年11カ月ぶり。川内1号機は11年5月の定期検査入り後、約4年3カ月という異例の長期間停止していただけに、原子力規制委員会は九電に万全の態勢を取るよう求めている。

九電は7月10日に川内1号機の原子炉に核燃料を装填。この日は核分裂を抑えるために入れられていた制御棒を引き抜き、原子炉を起動させた。

11日夜、核分裂反応が安定的に持続する「臨界」に達する見通しで、段階的に出力を上げていき、9月上旬に営業運転を始める予定。川内2号機も10月中旬の再稼働を目指している。

国内の原発は福島第1原発事故を受けて全て停止。12年7月、大飯3、4号機が再稼働したが、13年9月の定期検査入りで再び全て停止した。